

授業 科目名	【G】	刑事訴訟法 I	区 分 選 択	開講年次	【G】3	単位数	【G】2	
	【H】	刑事訴訟法 I			【H】3		【H】2	
	【I】	刑事訴訟法 I			【I】3		【I】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	捜査法			担当者	百花草 浩治			
授業概要	【概要】	いわゆる「捜査法」の基本原則、法的規律、基本的かつ重要な判例について講義をする。なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。						
	【到達目標】	①捜査法の基本事項(近時の法改正の内容を含む)を理解すること。 ②基本的かつ重要な判例の趣旨とその理論的な問題点を把握すること。						
履修条件	特になし。ただし、第1回目の講義には必ず出席すること。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	○ (やや当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との 関連性	【刑事法関係の開講科目】刑法概論を受講のうえ、刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ、刑法(各論)Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱを受講されたい。ただし、その順序は問わない。ほかに、情報法Ⅰ、特殊講義(特別刑法Ⅰ・Ⅱ)、特殊講義(刑事政策)と講義内容において密接に関係する。							
教科書	三井誠＝酒巻匡『入門 刑事手続法』(有斐閣)の最新の版							
参考書	松尾浩也ほか『条解刑事訴訟法』弘文堂、酒巻匡『刑事訴訟法』有斐閣、長沼範良ほか『刑事訴訟法』有斐閣、池田修ほか『刑事訴訟法講義』東京大学出版会、宇藤崇ほか『刑事訴訟法』有斐閣、池田公博ほか『刑事訴訟法』有斐閣、白取祐司『刑事訴訟法』日本評論社、中島宏ほか『刑事訴訟法』日本評論社、吉開多一ほか『基本刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ』日本評論社、渡辺修『基本講義刑事訴訟法』法律文化社、愛知正博『アクティブ刑事訴訟法』法律文化社、安富潔『刑事訴訟法講義』慶應義塾大学出版会、関正晴ほか『刑事訴訟法』弘文堂、三井誠『判例教材刑事訴訟法』東京大学出版会、『刑事訴訟法判例百選』有斐閣、田口守一『最新重要判例250刑事訴訟法』弘文堂、前田雅英ほか『刑事訴訟法判例ノート』弘文堂、井上正仁ほか『ケースブック刑事訴訟法』有斐閣、葛野尋之ほか『判例学習・刑事訴訟法』法律文化社など【それぞれ、最新の版】。							
評価方法	小テスト[複数回実施]の合計点で評価する。							
フィードバック 方法	①小テスト実施後に、全体的な状況についての「講評」を公開する。							
評価基準	原則として、少なくとも10回以上の「出席」を単位認定の前提とする。上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを全く受けていないなど評価不能な場合には「F」とする。							

授 業 科目名	【G】	刑事訴訟法 I	区 分 選 択	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	刑事訴訟法 I			【H】3		【H】2
	【I】	刑事訴訟法 I			【I】3		【I】2
授業回数	授 業 内 容						
1	イントロダクション、講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する 予習： 教科書全体の通読。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
2	刑事手続の全体像 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
3	刑事手続(法)の基本原則・刑事手続の担い手 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
4	捜査(1) 総説 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
5	捜査(2) 任意捜査と強制捜査の区別、捜査の端緒 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
6	捜査(3) 重要判例① 任意捜査と強制捜査の区別、職務質問、所持品検査、自動車検問 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
7	捜査(4) 逮捕・勾留 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
8	捜査(5) 物的証拠の収集・保全〔= 捜索・差押・検証等〕、報道機関に対する捜索・差押 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
9	捜査(6) 被疑者等の取調べ・被疑者の防禦、司法取引、取調べ可視化 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
10	捜査(7) 重要判例② 任意取調べ、別件逮捕・勾留と余罪の取調べ 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
11	捜査(8) 重要判例③ 写真撮影、ビデオ撮影、ごみの領置 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
12	捜査(9) 重要判例④ おとり捜査、GPS、エックス線検査 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
13	捜査(10) 重要判例⑤ 強制採尿、盗聴と電話検証(通信傍受法) 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
14	捜査(11) 重要判例⑥ 接見交通権、黙秘権(自己負罪拒否特権)、ポリグラフ検査 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
15	最後の小テスト、全体のまとめ 予習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。 復習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。						
その他	教科書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。【受講上の注意】正当な理由のない、遅刻および途中退室後の再入室は認めない。私語、携帯電話の使用は禁止する。その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。 授業ごとの予習・復習時間は、各90分程度を目安としてください。						